

ご挨拶

未だ収まらないパンデミックにより、海外留学と海外留学生の受け入れは今もって以前の状態に戻っていません。そんな中でオンライン会議が広く普及し、Collaborative Online International Learning など、新しい国際交流に関する教育方法も出てきました。最近、社名を変更した某巨大 IT 企業も新たに事業を展開したように、今年はインターネット上の仮想現実空間を利用する「メタバース」が注目を集め、今後さらにバーチャルな交流が増えると思います。しかし、お互いに尊敬し、理解し合う交流はどんな形態であっても大切であり、国際交流の重要性に変わりはないと思います。

今年のご支援に感謝申し上げますと共に、来年も変わらぬお力添えをどうぞ宜しくお願いいたします。

2021年12月 信州大学繊維学部
国際交流推進室長 小林俊一

学内行事

信州大学では、2017年から金沢大学と共同で「『かがやき・つなぐ』北陸・信州留学生就職推進プログラム」を実施してきました。両地域の特色を活かしながら外国人留学生の就職拡大を進め、学生たちが日本および地域社会で活躍し、社会の活力や産業競争力となることを目的としています。

その活動の一環として、12月4日(土)と5日(日)に、金沢市・長野市内でイベントが実施され、繊維学部からは3名の学生が参加しました。

参加学生たちは、石川県・長野県の名所を訪問しながら文化学習を通じてその地域の産業の特色や発展を学び、長野市内ではグローバルキャリアフェア・就職キャリア研修に参加しました。

先日の報道にもありましたとおり、来年度からは県内の企業様や他大学様と連携し新たな留学生就職支援事業が開始されます。県内での外国人留学生のさらなる活躍につながることを願っています。



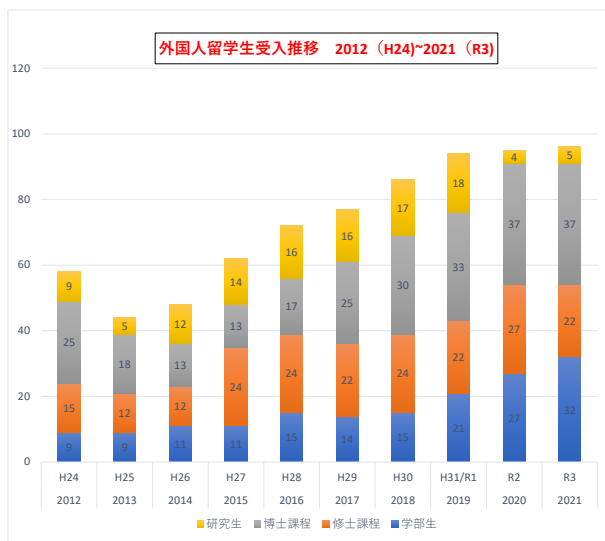
繊維学部 外国人留学生の動向

上田キャンパスでは、2021年9月24日(金)に、2021年度9月期卒業証書・学位記授与式および2021年度10月期信州大学大学院入学式が講堂にて執り行われました。

博士課程3名、修士課程2名の留学生を送り出し、新たに博士課程5名、修士課程1名を迎えました。

2021年12月現在の繊維学部(学部生、修士課程、博士課程、研究生含む)の留学生の総数は、96名となります。

新型コロナウイルス感染症の影響で、学部生、修士課程、博士課程、研究生の14名が未渡日です。11月上旬に私費外国人留学生の入国が一部緩和となったため、受入手続きを進めておりましたが、新たな変異株の世界的感染拡大により状況が一転し、再度入国制限が設けられました。留学生には我慢の日々が続きますが、最新状況を確認しながら入国に向けて支援してまいります。



2021年 12月現在

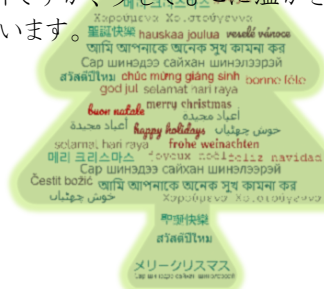
博士課程	37
修士課程	22
学部	32
研究生	5
計	96

中国	52	
ベトナム	11	
韓国	12	
パキスタン	4	
マレーシア	3	
台湾	2	
モンゴル	2	
モロッコ	1	
タイ	3	
インドネシア	2	
パキスタン	1	国費生
中国	2	国費生
バングラデシュ	1	国費生
合計	96	

外国人留学生への支援

留学生支援の会では、例年、成績優秀者かつ奨学金を受けていない私費外国人留学生を対象に学習奨励費を給付していましたが、今年度は、コロナ禍のため、長期に渡り思うように一時帰国もままならず、家族や友人と離れて学業に励みながら日本で過ごしてきた外国人留学生に向けて、一般社団法人千曲会（繊維学部同窓会）のご協力をいただき、留学生支援の会より全員に贈り物をしました。

贈り物には、様々な言語によるホリデーシーズンのメッセージを沿え、これからますます寒さが厳しくなる信州ですが、少しでも心に温かさを感じてもらえたらと思います。



〔留学先のノースカロライナ州立大学にて(環さん提供)〕

オンラインフランス語講座

繊維学部では2021年7月より、オンラインフランス語講座をスタートしました。講座開講にあたり、富岡製糸場のご厚意で、フランスからJETプログラム※で来日し、富岡市国際交流員として勤務されているヴェロニック・ムーランさんにご協力をいただいています。現在は6名の学部生が参加しています。

参加学生の多くは繊維学部と学術交流協定があるフランスの協定校への留学を目標としており、ヴェロニックさんとの交流を通してフランス語やフランス文化に触れる貴重な機会を得られています。製糸業という共通の長い歴史がある富岡製糸場と信州大学繊維学部の、今後続く交流のきっかけとなれば幸いです。

※JETプログラム＝海外の青年を招致して地方自治体等で任用し、地域の国際交流の推進と外国語教育の充実を図る事業。総務省、外務省、文部科学省、一般財団法人自治体国際化協会の協力の下に実施されている。



〔フランス ENSAIT にて(過年度派遣学生: 山田さん提供)〕

海外派遣中の学生からの便り

私は、2021年9月からアメリカのノースカロライナ州立大学で10か月間の学部間交換留学を行っている、化学材料分野修士1年の環良太です。

留学先は、繊維学部が協定している大学の中から英会話力を身につけつつ、自分の研究をさらに発展させられるような大学と研究室を選択しました。

研究室では、普段ポスドクの方のもとについて研究を進めており、実験機器の使い方や自分の知らない知識を教えてくださいました。その方以外にも、ポスドクや博士課程の方が多く在籍しており、自身の研究に対して相談にのって貰ったり、意見を頂いたりしています。専門的な話を英語で話すため分からない単語が多いですが、話を理解できた時の喜びを味わえて、自分の成長を身に染みて感じています。

日常生活では、来た当初、ファストフード店での注文やスーパーでの買い物さえも上手く出来ず日本との仕組みの違いに苦労しましたが、慣れてくると自由に食べたいものを選べたり、Uber（フードデリバリーサービス）などを利用出来たりなど、日本より便利だなと感じる部分を見つけられるようになりました。

また、週に何度か英会話クラブに参加し様々な国の方と自由に話すことができて、言葉や文化の違いを日々感じられてとても面白いです。様々な国のコロナ対策や政治事情を聞いたり、逆に日本の事について説明したりしています。残りの留学期間も色々な人と関わり文化の違いを経験しつつ、自分の研究を進めて、ここで得た経験を将来に役立てられるようにしたいと思います。

国際交流推進室 室員紹介（教員）

小林 俊一（室長、バイオエンジニアリングコース）
金 翼水（副室長、機能機械学コース）
マクナミー キャシー（副室長、応用分子化学コース）
鮑 カ民（機能機械学コース）
ハニウッド マイケル（感性工学コース）
朱 春紅（先進繊維工学コース）

本ニュースへのご意見、ご要望などありましたら、国際交流推進室メールアドレス

（fkokusai@shinshu-u.ac.jp）へお寄せください。

◆国際交流推進室ホームページ◆

<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/textiles/exchange/>